

# 直言

## 患者さんに一層優しく親切な対応を 全職員が風通し良く働ける環境醸成

人とのつながりと新たな出会いに感謝の念

湘南大磯病院(神奈川県) 院長

しまだ ひでお  
島田 英雄



湘南の海を一望する風光明媚な立地に当院はあります。3月1日に東海大学から医療法人徳洲会に事業継承され、徳洲会グループ75番目の病院としてリスタートしました。徳洲会病院としての開院から、その後の運営では、全国の徳洲会施設から多大なる支援をいただき、心より感謝申し上げます。

私は東海大学医学部を1983年に卒業しました。父は開業医で、家族が病気になるれば、治療はすべて父の担当でした。このことは私が医師を目指した原動力になったかも知れません。医師国家試験に合格し「外科はつぶしが利く」との勧誘で、同大学消化器外科に入局しました。研修後は、いくつかの出向病院に勤務、94年からは大学病院勤務となり、食道班に所属し診療、教育、研究に従事しました。食道がん手術は、その領域が胸部・腹部・頸部に及ぶ極めて侵襲の大きな手術です。患者さんのみならず、ご家族の負担も多大です。他の手術と比較しても、術後合併症の頻度は極めて高く、患者さんやご家族との緊密な信頼関係が不可欠です。今もお世話になっている恩師の幕内博康先生(現・東海大学顧問)

からは「患者さんには優しく親切に」と、そして「すべてに限界の努力を」と指導を受けました。2010年4月に大磯病院に異動し、15年から院長として8年間務め、現在に至ります。実際に外科でつぶしが利いたのか。これまで多くの患者さんに加え、両親の手術、長女の急性虫垂炎、さらに義父の食道癌在がんを内視鏡的切除で根治できたこともあり、外科医師になった甲斐があったと思っています。

### 病気だけを診るのではなく バランスの取れた治療を

今回の事業継承に際し、東海大学出身の医師が多く勤務することになり、私も院長に任命されました。当初はこの大役を本当に受けてよいものか、非常に悩みました。多くの院長は、長年にわたり徳洲会病院に勤務され、その実績が評価されて就任されています。そのなかで新参の私がどれだけ徳洲会の理念の下、お役に立てるか、まったく自信がありませんでした。しかし、前病院時より看護部長を務め、私が信頼する石山圭子・看護部長に加え、湘南鎌倉総合病院から、東海大学外科時

代の同僚だった消化器外科の柏木宏之医師(副院長)、さらに医療安全で以前より存じ上げていた循環器内科の高橋佐枝子医師(副院長)の赴任が決まり、人とのつながりのありがたさに感謝し、この大役をお受けしました。

### 夜間の救急患者さん断り率 低減することが目下の課題

事業継承後も、一医師としての診療姿勢や院長としての責務が変わるところはありません。現在、多くの疾患に『診療ガイドライン』が作成されています。これは、科学的根拠に基づき、患者さんと医療者の意思決定を支援するものとされています。しかし、患者背景を熟考せずガイドラインに盲従しては、患者さん各々に最適な治療を提供できないことがあります。また、最新治療が必ずしも最良とは限りません。とくに、多くのがん患者さんは高齢で併存疾患も多く、家族構成や社会的背景も千差万別です。がん治療の効果判定では生存期間の延長を期待しますが、生活の質を維持することは、さらに重要です。病気だけを診るのではなく、各人をみてバランスの取れた治療を心が

けたいと思っています。

4月には診療体制もほぼ整い本稼働となりました。入院は一般病床94床で開始し、6月にはHCU(高度治療室)8床の運用も始まり、術後管理や救急重症例の受け入れも可能になりました。最大の懸案事項は、夜間の救急患者さんの断り率低減です。以前より、専門診療科以外の対応は難しいと言う医師が多く、意識改革が直近の課題でした。体制も変わり組織全体で、断りをなくす気運と、各科相談医との協力体制によって大幅に減少しています。

私たち自身も優しく親切にしよう、周りにもそうしたくなります。各職場でも職員間のほんの少しの気配りにより、気持ち良く仕事ができるようになると思います。そして全職員で自然と『患者さんに優しく親切に』できる環境にしましょう。自由に意見が言える環境、これに迅速に反応する組織づくりも重要です。『全職員が風通しの良い環境で働ける病院』づくりに努めます。「湘南大磯病院で診てもらって良かった」と一人でも多くの患者さんに言っていただける病院が目標です。皆で頑張りましょう。

### 日本消化器内視鏡技師学会

## 徳洲会が2演題発表

### 動画用いた教育の工夫紹介



自院の工夫を披露する小熊看護師(左)と中西副技士長

第90回日本消化器内視鏡技師学会が5月26日から2日間、都内で開かれた。テーマは「内視鏡技師の未来像を描く、未来へ繋ぐ〜安全と信頼を高める医療のリーダーシップを目指して〜」。徳洲会グループは2演題を発表した。

札幌東徳洲会病院の小熊愛看護師はシンポジウムで登壇。「医師・コメディカル全員が動きやすくスキルアップできる環境を目指して」と題し、スムーズかつ安全な内視鏡検査を行うための工夫を紹介した。

具体例として、内視鏡検査にかかわる全医師・コメディカルによる毎朝の5分間ミーティング、BLS(一次救命処置)やACLS(二次救命処置)受講の義務化などを挙げ、それぞれ成

果が得られていることを強調。

また、アンケート調査で医師とコメディカル双方の要望を明らかにし、動画による業務マニュアル作成、消化器内視鏡技師資格の取得推奨などにも取り組んでいることを示した。

小熊看護師は「コメディカルがスキルアップすることで、より良い内視鏡検査が可能になります」と指摘。「今後も内視鏡

### 口腔機能評価を執筆

村山・岸和田病院副部長

岸和田徳洲会病院(大阪府)の村山敦・歯科口腔外科副部長が著者のひとりを務めた『栄養療法ポケットブック』(南江堂、3,080円)が、5月に刊行された。同書はカテーテルの挿入方法や嚥下機能の見方など、栄養療法の基本的事項を網羅した専門職向けの



「口腔機能の評価について学べます」と村山副部長

検査技師を中心に、スキルアップ対策を図ってまいります。」

八尾徳洲会総合病院(大阪府)の中西孝次・臨床工学科副技士長(臨床工学技士)は一般演題で「イレウス管挿入手技介助教育における動画資料の工夫」をテーマに発表。

與田・福岡病院薬剤師

### テニス国際試合で優勝

福岡徳洲会病院の與田賢作薬剤師は、ソフトテニスの世界ランキング認定試合「OKINAWA2023インターナショナルソフト

テニス チャンピオンシップ」の「シニア40ダブルス」部門に出場し優勝した。同大会にはシングルスやダブルスなど計6部門あり、日本のほか台湾や韓国など8カ国から258人が参加。「いつか優勝したいと思っていましたが、初めての国際試合で1位を獲得でき、感動です」と與田薬剤師は誇らしげ。

與田薬剤師はがん専門薬剤師として主に外来で、がん患者さんの化学療法に携わり、また日

本DMAT隊員としても活動。試合前は週3〜4回はテニスの練習の時間を取るなど薬剤師とテニスプレイヤーの二足の草鞋で頑張ってきた。「試合中のプレッシャーに比べれば仕事の忙しさは、そこまで苦になりません。テニスにメンタルも鍛えられています」と與田薬剤師は笑顔を見せる。



金メダルを手に笑みを浮かべる與田薬剤師(右)

病気の  
はなし 125

## 原因は脱水だけではない

ドライマウス

ドライマウスは唾液の分泌が減り、口腔内が乾燥した状態を指す。口の中がネバネバして気持ち悪くだけでなく、唾液のもつ自浄作用が低下し、う蝕や歯周病のリスクが上がったり、口臭が強くなったり、唾液による口腔粘膜の味蕾への刺激が減り味覚障害が起こったり、義歯が安定しなくなったりと、さまざまな弊害が出る。

原因は水分不足(脱水)だけではない。加齢による唾液腺の萎縮、自己免疫疾患のシェーグレン症候群や糖尿病の一症状、向精神薬や睡眠薬など薬剤の副作用、脳血管障害などで咀嚼力が低下したことによる唾液腺周りの筋力低下などがあり、「単に水分を摂れば必ず治るというものではありません」と武蔵野徳洲会病院(東京都)の吉澤泰昌・歯科口腔外科部長は注意喚起。

原因を特定できたとしても、疾患の一症状や加齢など原因の除去が困難である場合が多く、ドライマウスの治療は基本的に対症療法だ。具体的には①水分を摂る、②うがいをする、③唾液腺マッサージを施行、④ガムや飴で唾液腺を刺激する――の4点。③は耳下腺および顎下腺のあたりを皮膚の上から圧迫刺激する方法で、自身で行うこともできる。

吉澤部長は、高齢者は唾液不足で口腔内が不衛生になることで、誤嚥性肺炎のリスクが増加することを指摘し、「根治は難しいことも多いですが、症状軽減は重要です。ご自身や被介護者がドライマウスかなと思われたら、一度、歯科口腔外科受診を。」

